

「アメリカ大陸横断」

05L4197 杉山 貴哉

誰でも「こんな旅をしてみたい」という思いがあると思います。アメリカ大陸横断、私はこの夏、小さいころからの夢を実現することが出来ました。2006年8月上旬、私は中部国際空港からニューヨークに向かいました。このときから私の冒険が始まりました。一人で海外に行くのは初めてです。短期語学留学とは違い、丁寧にサポートしてくれるスタッフはいないので、不安感がありました。でも英語力をつけるため、自分を成長させるため、あえて一人でアメリカに行くことに挑戦しました。私が参加したのは「トレックアメリカ」という現地のツアーです。東のニューヨークから西のロサンゼルスまで三週間かけて広大なアメリカ大陸をバンで横断します。旅路の途中で都市や国立公園に寄ります。ナイアガラの水の轟音、シカゴの美しいビル、バッドランド国立公園、イエローストーン国立公園、ヨセミテ国立公園、映画の街ハリウッド、港町サンフランシスコなど、このトレックアメリカでは普通のツアーでは行かないような場所や、個人で行くのは難しい場所に行くことが出来るのも、魅力のひとつです。

旅のメンバーは国際色豊かでとてもにぎやかでした。イギリス人が4人、ニュージーランド人が2人、イタリア人1人、ドイツ人1人とツアーリーダー兼ドライバーのアメリカ人の計10名です。学生はもちろん、社会人や女性の参加者もいて、みんな明るく、旅を楽しんでいるように自分から積極的に行動していました。



< Mt.ラッシュモア >

また、それぞれの国の文化についても学ぶことが出来ました。イタリア人からパスタの作り方、イギリス人からはジョークとボディランゲージ、ニュージーランド人からはマオリ族の文化とマオリの踊り「ハカ」を教えてもらいました。ドイツ人にはなんと日本の「数独」を教わりました。日本の文化をアメリカでドイツ人から教わり、不思議な感じがしました。でも、このように文化は巡るのだと思いました。また一番驚いたのは「いただきます」を言わないこと。出来上がった料理を受け取ると、すぐに食べ始めます。このことを教えると、みんな感心して一緒に手を合わせて「いただきます」と言ってくれたので嬉しかったです。そのほかにも箸の持ち方、正座など、日本の文化に対してとても興味を持っ

てくれました。



このトレックアメリカはとてもハードなキャンプ旅行ともいえます。まず毎日、朝が早く、毎朝6時に起床してテントをたたみます。次に朝食をとった後、協力してキャンプ場の掃除をして、バンに荷物を詰め込み出発。一日5、6時間はバンで移動します。車内は常に音楽がかかっていて、ゲーム、トーク、昼寝、読書など、思い思いの時間を過ごしました。

毎日日記をつけていたメンバーに勧められ、私も英語で日記を書いてみました。寝泊りは主にキャンプ場で、都市などでは格安のホテルに泊まりました。また、二人でペアになってテントを張り、寝袋で寝ます。寝袋で寝ることは生まれて初めてのことだったけれど、とても快適でした。寝袋以外のキャンプ用品は全て用意されているけれど、食事は自炊が基本です。食費は1人1日7ドル(US)で、それを軍資金にスーパーへ買出しに行きます。アメリカのスーパーマーケットの大きさにも驚かされました。ちなみに朝は毎日コーンフレーク、バナナと紅茶やコーヒー。昼は公園でチーズ、レタス、トマト、ハムにマスタードとケチャップをたっぷりつけたサンドウィッチを作って食べました。「郷に入っては郷に従え」、私はアメリカ人のように朝から晩までおなかいっぱいになるまで食べました。日本に帰って5キロ増えた体重を見て、アメリカ人がなんであんなに大きいのかわかった気がします。夜は二人ずつ当番で料理を作ります。当然のことながら、国際色豊かなものとなります。イタリア人のパスタ、ニュージーランド人特性のバーベキュー、アメリカ人のタコスなど。私の当番の日、みんなは「すし、てんぷら、刺身」とキャンプでは難易度の高い料理をリクエストしてきました。日本食の人気もかなり高いです。結局私は二日間で、野菜炒め、ラーメン、日本のキャンプの定番、カレーライスを作りました。口に合うか、うまく出来るか心配だったけど、みんなが「うまい」と言っておいしそうに食べている姿を見て感動しました。いつも迷惑をかけていたので、メンバーのために何かすることができ、本当にうれしかったです。夕食後は、ビールを飲みながらゲームをしたり語り合ったりしました。ランタンの灯りが暖かったです。

一番印象に残っているのがヨセミテ国立公園です。また野生のリス、バイソン、ヘラジカも見ることが出来ました。標高三千メートルでキャンプしたので夜はとても寒かったです。ジーパンにジャージを重ね着して寝たほどです。さらに野生のオオカミが鳴いたので



<ヨセミテ・ハーフドームをバックに>

恐かったです。次の日は朝早くからハイキングをしました。国立公園には数々のハイキングコースが用意されています。私達のグループもそれぞれの体力に合わせて各自コースを選びます。私達が選んだのはとてもハードな 8 時間コース！柵がないところもあるので、バランスを崩して谷側に落ちないように 1 歩 1 歩慎重に歩きました。下っている最中は、交代で歌を歌いました。私が日本語で「上をむ～いて。あ～るこお～おお♪」と歌うと、日本語が珍し

いのか、何度も歌って！！とリクエスト。ハイキングが終わるころには合唱できるようになりました。イタリア語やドイツ語の歌の歌詞も覚えめました。あの頂上から見た景色の壮大さ、歩いている時の気持ちよさ、そして感動は言葉にできません！ただ景色を眺めるだけでは終わらず、何時間もかけてハイキングし、壮大な自然の芸術を体感する。これがアメリカ流です。

もちろんこのツアーの共通語は英語です。英語ができないと日本には帰る事が出来ないという気持ちで必死に英語の勉強をしました。一ヶ月前から英語のリスニング用の CD を毎日聴き、簡単な英会話集も読んでいたので、正直何とかコミュニケーションは出来ると思っていました。でも実際の英語は想像以上に速かったです。最初の一週間はメンバーとのコミュニケーションに悩みました。特にバンの中で二人きりになると、自分の会話力のなさが顕著になります。中学校の教科書にあるような英会話を必死に続けても、30 分ほどしかもちません。自分が英語を話せないこと以上に、相手を楽しませることが出来ないことが辛かったです。また、会話についていけず、一人ぼっちなることもありました。本当に日本に帰りたいたいとも思ったり、語学留学にすればよかったと後悔したり・・・思い通りにいかずネガティブになっていました。日本にいるときには感じられない言葉の壁。でもメンバーと仲良くなりたい、少しでも会話をしたいと思い、まずはメンバーの英語を何とか聞き取ってコピーし、簡単な単語からでもいいので実際に口に出して発音するようにしました。景色を見たとき、初めは「good」「beautiful」などの表現しか使えなかったけれど「wonderful」「cool」「fantastic」「amazing」などの言葉も自



然に出るようになりました。そんな私の一語一句に懸命に耳をかたむけてくれるメンバーの心遣いが、ありがたかったです。十分な会話は出来ませんでしたが、カタコトでも常にコミュニケーションをとり続け、会話力がダメなら行動力で自分自身をアピールすれば、十分に共同生活を楽しむことができます。語学力、国籍、性別などより、一番大切な事は、個人個人の人間力のようなものだと思います。別れの日、メンバーと別れるときはすごく寂しかったです。リーダーのアメリカ人から「Takaの英語は確実によくなったよ！毎日積極的に英語を話そうとする姿が印象的だったよ。これからも英語の勉強を続けてね」と言われ、嬉しくて涙が出てきました。メールアドレスを交換し、必ずいつか再会できることをみんな信じてそれぞれの国に帰って去了。

この旅で自分の世界が広がり、世界中に友達も出来ました。また、日本の文化についてももっと知り学びたいという意欲も出てきました。中部国際空港に着いたときに「ようこそ日本へ」という外国人向けのポスターがありました。ポスターは4分割されていて、それぞれが日本の四季を表していました。それを見た瞬間、私はその足で秋の京都に行きたいという衝動に駆られました。そして、外国人に日本の良さを語りたいと思いました。急に日本食も食べたくなり、帰国して「やはり日本が一番いいな」と心の底から感じていました。初めて一人で行く海外で言葉の壁にぶつかり、苦労したこともあったけど、とても優しいメンバーに恵まれたおかげで、この旅はとても楽しいものになりました。うまく話すことが出来ない悔しさと、日本語のようにメンバーと話せたらいいなという思いが強く残りました。この夏の大冒険は終わってしまったけど、私の英語の旅は始まったばかりです。



< 旅の仲間たちとバン >